

平成 27 年度 合志農業活力プロジェクト 活動レポート

全国で再生可能エネルギー事業を行う自然電力グループは、再生可能エネルギー発電所の立地地域に対し、積極的な地域還元事業を行うことを目指しています。その最初の取り組みである「合志農業活力プロジェクト」が、1年目の地域還元事業を終えました。

本活動レポートでは、合志農業活力プロジェクトの平成 27 年度の取り組みについて記載します。

<プロジェクト概要>

合志農業活力プロジェクトは自然電力株式会社（本社：福岡県福岡市中央区荒戸／代表取締役：磯野謙、川戸健司、長谷川雅也、以下「自然電力」）が事業開発を行い、平成 26 年 3 月に完工した「合志農業活力プロジェクト太陽光発電所」（以下「本発電所」）の配当と売電収入の一部を、発電所が立地する熊本県合志市の農業振興に還元する取り組みです。



合志農業活力プロジェクト太陽光発電所



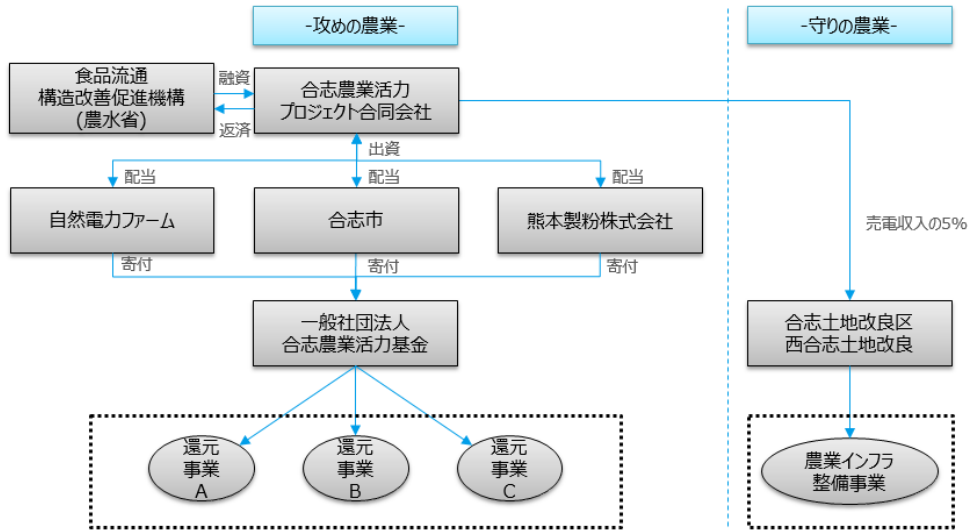
合志市と自然電力との包括連携協定締結

自然電力は、平成 25 年 1 月に合志市と包括連携協定を結び、同市と共同で、再生可能エネルギーの普及と、その売電収益を地域に還元する仕組みを検討してきました。その計画が、農林水産省の「地域還元型再生可能エネルギーモデル早期確立事業」の無利子融資対象事業に選ばれ、自然電力グループ会社の自然電力ファーム株式会社（本社：鹿児島県西之表市安城／代表取締役：磯野謙、以下「自然電力ファーム」）、地元合志市の企業である熊本製粉株式会社、そして合志市の 3 者が設立した合同会社・合志農業活力プロジェクトが実施主体となって本発電所の建設に至りました。

本プロジェクトでは地域の農業振興を「守りの農業」と「攻めの農業」という 2 本の柱で捉え、協力していきます。1つ目の「守りの農業」としては、合志農業活力プロジェクト合同会社の売電収入の 5%を、合志土地改良区・西合志土地改良区における用水路等の農業インフラの整備・改善に活用して頂きます。2つ目の「攻めの農業」として、合志農業活力プロジェクトから自然電力ファーム・熊本製粉株式会社・合志市の 3 者に入る配当金の一部を「一般社団法人合志農業活力基金」に集約し、そこから新たな農業分野におけるチャレンジを後押しするために活用します。これらの協力活動は売電事業が続く 20 年間毎年

平成 27 年度 合志農業活力プロジェクト 活動レポート

行うものであり、本発電所の所在地である合志市の農業振興を長期的・多角的に推進することを目的としています。



合志農業活力プロジェクトのスキーム図

「攻めの農業」においては、自然電力ファーム・熊本製粉株式会社・合志市が地域内でのヒアリング等を経て協議を行いながら、毎年支援先の還元事業を選定していきます。3者が連携することで、地域内外のネットワークを活かした画期的な取り組みを生み出すサポートをしていきたいと考えています。

<平成 27 年度の取り組み ～守りの農業～>

平成 27 年度は、前年度（平成 26 年度）の太陽光発電事業による売電収入の 5%に当たる約 260 万円を用い、合志土地改良区・西合志土地改良区における農業水利施設等の維持管理事業の一部への助成を行いました。

具体的には、洪水調整池の伐採事業・分水工減圧弁のオーバーホール事業等、計 7 つの農業インフラ整備事業を行い、農業生産の向上・増大を図る取り組みに寄与しました。



調整池の草刈・伐採（作業前）



調整池の草刈・伐採（作業後）

<平成 27 年度の取り組み ～攻めの農業～>

平成 27 年度は、「攻めの農業」への施策として、前年度（平成 26 年度）の太陽光発電事業による配当金の一部を一般社団法人合志農業活力基金に集約し、以下の地域還元事業への助成を行いました。

1. 農産物販路拡大支援事業

本事業においては、合志市産農産物の美味しさや栄養価の高さを首都圏エリアで発信し、地方創生の一助とすることを目的として、株式会社イージェイ（東京都）の新商品開発プロジェクト立ち上げに対して100万円の助成を行いました。

一般社団法人クラッシーノこうしが運営する生産者直売所「クラッシーノマルシェ」からイージェイが食材を仕入れ、健康志向の人々の間で人気があるコールドプレスジュース（※1）と、スープ用のブロス（※2）に加工して東京都内で販売しました。使用したのは「クラッシーノマルシェ」から仕入れた合志産のニンジン・トマト・長ねぎ・ゆず胡椒等です。中でも形の不揃いさや傷のため、味や中身には問題がないのに市場に出回りにくい規格外農産物を活用し、合志市の生産者の所得向上と食品廃棄の削減への貢献も目指しました。

イージェイが運営するコールドプレスジュースの製造・販売店「EJ JUICE & SOUP」麹町店と渋谷店の2店舗では下記の2メニューを店頭販売し、合志市産農産物のブランド発信を行いました。イージェイは平成 28 年度以降も継続して新商品企画の取り組みのため、引き続き合志市内の農家との連携を進めています。

※1 …野菜や果物を熱の発生を抑えながら圧搾して抽出したジュース

※2 …肉・野菜などを煮込んで取る出汁



KOSHI'd pressed juice



KOSHI GREEN ONION BROTH



EJ JUICE&SOUP 麹町店の様子

2. バイオガス発電調査事業

酪農も盛んな合志市において、自然電力ファームが中心となって実施した、「畜産糞尿を利用したメタン発酵バイオガス発電事業化の事業性調査」の費用の一部、100 万円を助成しました。

合志市長を会長とする協議会を設置し、市の関係部署並びに地元酪農家、廃棄物処理業者等の参加を得て調査結果に対する議論を重ね、市内で活用可能な酪農資源の定量的把握、酪農家並びに耕種農家による営農状況の把握を行いました。また、本事業は先進地視察や市内のバイオガス発電プラントの候補地整理、その他の利用可能なバイオマス資源の特定を進めました。調査により、酪農家の経営拡大・農地の適正利用・臭気対策など多方面に渡る課題や、酪農家の問題意識も明らかになりました。今後は、市内酪農業の抱える課題の解決を図ると共に更なる振興に資する取り組みの検討を進めていきます。



バイオマスの先進的な活用事業の視察

3. 新品種育成支援事業

九州大学が開発し熊本製粉が合志市内の農家と共同で生産に取り組む「WE（ウイ）米」は、難消化性でビタミンを多く含み、糖尿病患者への有用性や生活習慣病の予防効果があるとされている新しい品種のお米です。これは、農業の6次産業化につながる取り組みであり、また合志市の目指す「健康都市こうし」にも合致するため、合志市農政課も協力し、高付加価値化による作付け農家の所得改善を目指しています。そのような中で、平成 27 年度は「WE 米」作付け農家に対する所得支援として、農家 4 戸（作付面積合計 21,530 m²）に対し、通常の米作との差額相当額 190 万円を助成しました。出荷された WE 米（合計 7,317Kg）は、「WE 米めん」の商品名で、合志市の物産館「クラッシーノマルシェ」などで販売されています。



「WE 米」作付け農家の皆さん



「WE 米めん」の商品パッケージ

4. 農業施設設備補助事業

合志市内の菊池地域農業協同組合が進めるブランド販売戦略に基づく西瓜選果施設に対し、農産物の高付加価値化に寄与するためフォークリフト購入費用の一部 130 万円を助成しました。排気ガスを出さない電動式のため、閉鎖的な環境である予冷库での使用に際し、作業環境の改善にも寄与していると考えています。



導入されたフォークリフト

5. 新規農業従事者支援事業

建設・土木事業者の業態転換および、農業の 6 次産業化を促進し、従来とは異なる視点からの農業振興を目指すため、農産物の生産・加工に興味を示す合志市内の建設・土木事業者等に対し、農業展示会や研修会等への視察費用の一部 27 万円を助成しました。

一例として、地元若手経営者を中心とした有志団体から、鹿児島市内で開催された「大学合同新技術説明会・技術相談会」に 9 名が参加し、竹の利活用についての研究発表を聴講した後、個別面談も受けることができました。



農業に関する新技術研修会の様子

本年度は地域還元事業のスタートの年であり、地域事業選定スキームの構築等を行う必要があったため、具体的な事業実施が思うように進まなかった側面もありました。しかしながら、結果的にはこれら 5 つの事業を実施し、合志市の農業振興へ継続的に寄与していくための足がかりを築くことができたと考えています。

<Asian Power Awards 2015 の受賞について>

また合志農業活力プロジェクトは、平成 27 年 9 月にタイ・バンコクにて行われた「Asian Power Awards 2015」において、「Solar Power Project of the Year」金賞を受賞致しました。

「Asian Power Awards」は、アジアのエネルギー業界において権威ある賞の一つであり、業界の草分け的なプロジェクトや先駆的な事業を発掘し、表彰する取り組みです。本プロジェクトは、太陽光発電所の収益を継続的・直接的に地域に還元するという計画が、新しくまた有意義であると評価され、今回の受賞となりました。

<今後の取り組みについて>

合志農業活力プロジェクトの地域還元事業として 2 年目の取り組みとなる平成 28 年度は、自然電力グループ・熊本製粉株式会社・合志市の 3 者の連携を更に深め、協力対象の事業に併走しながら、地元発のチャレンジを育てていくことを目標としています。助成の方法としては単年度の支援にとどまらず、複数年に渡って事業を育てていくことにも注力していきます。また、本プロジェクトは合志市の農業振興につながる取り組みを前提としていますが、熊本県内のその他地域の企業の技術等も掛け合わせながら、より広く合志市の魅力を伝え、その活性につながる取り組みを生み出していきたいと考えています。

<自然電力株式会社について>

自然電力は、平成 23 年の会社設立以来、グループ全体で約 700 メガワット（平成 27 年 12 月末時点）の太陽光発電所の企画・開発・EPC（設計・調達・建設）・O&M（運営・保守）に携わってきた再生可能エネルギーの事業会社です。平成 25 年には、世界有数の風力・太陽光発電事業の開発・EPC 企業であるドイツの juwi（ユーイ）株式会社と国際ジョイント・ベンチャーである juwi 自然電力株式会社、juwi 自然電力オペレーション株式会社を設立し、グローバル・ローカルの視点を掛け合わせ、再生可能エネルギー発電所の設置に必要なすべてのサービスをワンストップで提供することを強みとしています。自然電力グループは、今後も高品質な再生可能エネルギー発電所の設置と運営を心がけ、日本における再生可能エネルギーの一層の普及を目指してまいります。同時に、再生可能エネルギー発電所の利益を地域に還元する“1% for Community”を通じて、持続可能な地域社会の構築に貢献をしていきたいと考えています。



<事業に関するお問い合わせ>

自然電力株式会社 事業推進部
地域還元事業 担当 高尾

<メディアの方からのお問合せ>

自然電力株式会社 PR 担当 川村

TEL:03-3868-3391

MAIL: infomail@shizenenergy.net